



歯医者さんが教える 歯と口腔の健康管理

〔第9回〕 歯や口腔の外傷について①

監修／歯学博士 鹿島 健司

10月～1月号の4回にわたって口腔粘膜疾患～口腔がんという、普段あまり目にする事のない症例を供覧させていただきました。歯磨きの際には必ず鏡を見るようにし、歯や歯肉だけでなく舌や粘膜全体をチェックすることをお勧めします。お口を大きく開ければ、自分自身でも変化を見つけることができます。1週間～10日に一度くらい、日にちや曜日を決めてお口のセルフチェックをしてください。そして、おかしいな?と思ったら、早めに信頼できる“かかりつけ歯科医”を受診することを、改めて強調させていただきます。

さて、今回は歯やお口の外傷についてお話しします。転んだり、ぶついたり、様々な外傷によって歯や口腔はしばしば大きな損傷を受けることがあります。

1. 口唇や歯肉のケガ

口唇が切れた際は、早く処置をしないと硬結や感染によってきれいな形に治すのが難しくなります。消毒をしたうえで1日以上放置しないようにします。また、歯肉のケガは歯の損傷も考慮する必要があります。傷口を触らないよう、軟らかめで刺激の少ない食事にして、いずれのケースも速やかに医療機関を受診してください。

2. 歯がグラグラしたり(不完全脱臼)抜けてしまった(完全脱臼)場合

・隣の歯がしっかりしていれば、グラグラになってしまった歯を両サイドの歯で固定してもたせることができます。放置すると動揺(グラグラ)が大きくなったり歯の神経が死んでしまったりするので、早めに歯科を受診してください。
・完全に抜けてしまった場合、抜けた歯を乾燥させず、早急に元に戻すことで歯の再植が可能です。不潔な状態でなければ、その場で抜けた部位に差し込んで構いません。その場合、次の3点を留意してください。

- ①歯根を触らないようにする。
- ②抜けた歯を乾燥させず、また、歯根を覆っている細胞の浸透圧を考慮して、歯の保存液や牛乳、生理的食塩水、あるいは吐き出した唾液に浸しておく。
- ③できるだけ速やかに、できれば30分以内に歯科を受診する。

3. 歯が折れてしまった場合

歯根が折れてしまうと抜歯になるケースがほとんどですが、歯冠が折れた場合には歯と同じ色をした材料(樹脂)

監修／鹿島健司(歯学博士)。1958年1月生。かしま歯科医院院長。川口歯科医師会学術部長 日本大学兼任講師

で比較的簡単に修復することができます。歯髄(歯の神経)に影響が出てしまうと、その処置を施した後にセラミックや金属冠を被せるようになります。



写真1 下の前歯の外傷

2歳の女兒が家の階段で転んでしまい、下の前歯を4本打撲・脱臼(歯が歯槽骨から飛び出してしまう状態)してしまったのが、写真1です。結局、4本とも動揺(グラグラ)が強く、抜歯せざるをえませんでした。

写真2左は外傷によって右上の前歯が、写真2右は上の前歯2本が抜けてしまい(完全脱臼)、歯にブラケットという矯正治療で使用する装置を付けて歯を元に戻して(整備)固定した状態です。比較的早期に来院されたので、このような処置が可能でした。

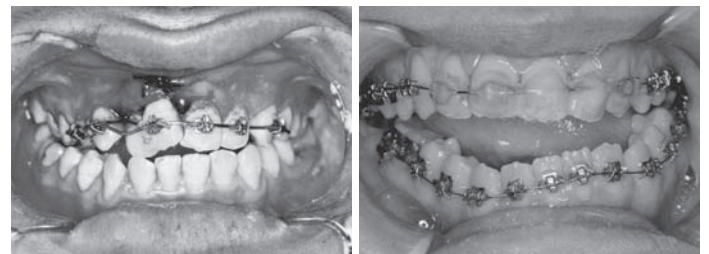


写真2 左は完全脱臼した右上前歯の再植、右は矯正治療中に事故によって上の前歯2本を完全脱臼してしまったケースの再植

4. 顎の骨の骨折

重症な場合は、歯や歯肉・粘膜だけでなく顎の骨を骨折してしまう場合もあります。上顎と下顎をワイヤーで結んで固定する方法をはじめ、全身麻酔によって手術するケースもありますので、そのような際は口腔外科のある病院を受診してください。

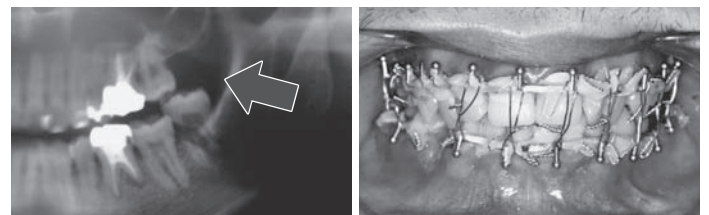


写真3 (左) 左下顎骨の骨折 歯も折れている。

写真4 (右) 顎間固定による治療